教育経済建設常任委員会行政視察報告書

中　山　富　夫

〇埼玉県鴻巣市市

学力向上の取り組み及びICTの効果的な活用について

【所見】

鴻巣市教育行政の施策の基本方針に掲げた「縦の接続」と「横の連携」を重視した、つながりのある教育施策を掲げ、ＩＣＴを活用して教育の実践に取り組んでいます。

教育委員会・総務課職員の新井亮裕氏が、「鴻巣市学校教育情報化推進計画」の策定や教育情報基盤の推進等、教育情報化推進業務を推進し、ＧＩＧＡスクール構想やＩＣＴの活用など、環境整備を進めてきた人物と説明を受けました。

話の中で、教員が今までに費やした時間が短縮された、例えば、既に先生たちが作った答案用紙をそのままスキャンするだけで、採点支援システム側に呼び込めるので、手間が省けて時間短縮や負担軽減につながっているとのことであります。

私が心配しているのは、デジタル公務であります。小学校から中学校までの９年間を「個人カルテ」として、学籍・出欠・成績・保険などの情報を体系的に蓄積し、「欠席が続いている」「保健室によく行く」「アレルギーがある」などの傾向を、教職員間で共有。９年間の成長を見守り、きめ細やかな生徒指導をサポートするとのことであります。

説明を受けていて、私が心配したのはプライバシーやいじめの問題が発生するのではないでしょうか。また、先生の私見によって、小学校低学年で発生した事案が、中学校３年生まで管理されるというのは、如何なものかと感じました。

また、責任問題が発生した場合を想定して、保護者や生徒に承諾書を受領しているとのことで、デジタル公務の一長一短が垣間見えた気がいたしました。

○神奈川県小田原市

まちのコイン「おだちん」事業について

【所見】

この事業は、神奈川県と連携し、「つながりポイント事業」として、人と人とをつなげるためのコミュニティポイントによって、お金を払うほどではない「お礼」として利用、活動履歴が公開されて、個々の活動のつながりが見えるなど、体験を通してＳＤＧｓを実行することが出来るとのことでありました。

今後の課題として、登録店舗や登録者の拡大、現在「まちのコイン」を導入している地域が全国１８地区で事業を展開しているとのこと。その１８地区との連携、例えば「まちのコイン」サミット、現代社会において希薄になってきている「人と人とのふれあい」の大切さ、共通して利用できる「つながりポイント事業」など、もっと拡大していけるものと感じました。